



# 『エミューオイル』 海外文献集

## News Emu From Australia

Mar. 2021 Vol.1

### 《オーストラリアからの最新情報》

こんにちは！

オーストラリアから届いた「エミューオイル」についての最新情報を、皆様にいち早くお知らせする【News Emu】です。

今回は、実はたくさんある、世界の「エミューオイル」の臨床研究論文をご紹介します。

### ☆☆ 関節炎とエミューオイル ☆☆

#### ◆論文1. ～ 腱鞘炎の臨床報告 ～

『エミューオイルを継続的に摂取または患部に塗布し続けた場合には、**開始から3週間後の変形性関節症患者の痛みを軽減するのに効果的だと思われる。**』



また、エミューオイルの効果は、グルコサミンやカプサイシンなどの他の成分と組み合わせると、より変形性関節症に効果的な治療法となる可能性が期待できます。』

\* 出展：『腱鞘炎治療におけるエミューオイルの有効性』（豪州ビクトリア大学） R.パワー博士、M.キャメロン博士。 “Emu oil for osteoarthritic hand pain” using Emu Spirit's Oil of Emu

#### ◆論文2. ～ 抗炎症活性の研究報告 ～

『エミューオイルと経皮輸送体の適切な組み合わせは、さまざまな実験で抗炎症（抗リウマチ）活性を示すことがわかっています。

**最も有効な処方、ウィンターグリーン油、イソプロパノール、メントール（ペパーミント油）をエミューオイルと組み合わせたときに確認されました。**

また、実験的な研究の成果としては、エミューオイルとウィンターグリーン油との間に相乗効果が生じていることを示しました。

その組み合わせによる抗炎症活性は、単独で使用した場合、他のいずれかの成分の合計よりも大きかったからです。』

\* 出展：『新たなエミューオイル製剤の抗関節炎活性を確定するための実験的研究』

P.ゴーシュ博士（豪州公立ロイヤルノースショア病院）、M.ホワイトハウス博士（豪州公立アデレード大学）  
“Experimental study to determine the anti-arthritis activity of a new emu oil formulation (EMMP)”



## ◆論文 3. ～ 関節炎の臨床試験 ～

『米国オクラホマ州アードモア関節炎クリニックの T.リーハイ博士は、**エミューオイルが関節炎によって引き起こされる痛みを大幅に軽減する**可能性があることを発見しました。

関節炎患者を対象とした 2 週間の二重盲検プラセボ対照試験では、エミューオイルを使用した 12 人中 7 人が、8 人の鉱物油（プラセボ）使用者と比較して、**痛み、腫れ、寝起きの体こわばりが大幅に軽減した**と確認されました』



\* 出展：『痛みをつかむ：エミューオイルと炎に関する事実の報告』 T.リーハイ博士（米国オクラホマ州アードモア関節炎クリニック）

“Getting a Grip on Pain: Documenting the Facts on Emu Oil and Arthritis”

## ☆ ★エミューオイルの抗炎症性★ ☆

## ◆論文 1. ～ 抗炎症作用の研究報告 ～

『エミューの皮下脂肪から得られる「油」は、皮膚に塗布すると、慢性炎症への非常に効果的な阻害剤となる（=**慢性炎症を抑える機能がある**）。

また、**エミューオイルの品質によって関節炎の症状を抑える能力が異なり**、エミューオイル自体の生理活性(注\*)の化学的な検証が必要であることも示している。』



(注\*) 生理活性とは、生体内のさまざまな生理活動を調節したり、影響を与えたり、活性化したりすること。ビタミンや補酵素、ホルモン、抗生物質などにより機能する。

\* 出展：『エミューオイル：アボリジニ医学における毒性の無い経皮抗炎症剤の供給源』

M.W.ホワイトハウス博士、A.G. ターナー博士（豪州公立クイーンズランド大学薬学部）、他共著

## ◆論文 2. ～ 精製法に起因する研究報告 ～

『オーストラリア政府の RIRDC（農産業研究開発公社）が実施した調査によると、**エミューオイルはヒト細胞の炎症に影響を及ぼす**ことが確認されました。

これらの炎症誘発性のサイトカイン（注\*）の抑制は、エミューオイル塗布後の IL-1α と TNF-α（注\*\*）の減少を確認したヨガナサン博士による抗炎症作用の研究報告と、一致しています。

また、これらの炎症誘発性のサイトカインの減少が炎症の減少と関連していることも報告されました。

さらに、**様々なエミューオイルの投与方法により、抗原性補強剤誘導の関節炎に対する抗炎症活性が異なる**ことがわかりました。』

(注\*) サイトカインとは、細胞から分泌される低分子のタンパク質の総称で、細胞間の情報伝達を担うホルモン様物質。

(注\*\*) IL-1 $\alpha$  と TNF- $\alpha$  とは、両方とも炎症や腫瘍の発生などに関係するサイトカインの種類。

\* 出展：『エミューオイル精製による抗炎症効果』  
C.A.ルーナム博士（豪州政府 農産業  
研究開発公社）

## ☆☆エミューオイル その他の研究☆☆

### ◆コレステロール値への作用について

『アメリカで行われたエミューオイルのコレステロール値への影響に関するいくつかの研究のなかで、以下のように報告されています。』

0.05%のコレステロールを含む固形飼料ベースに、10%のエミューオイルまたはココナッツオイルのいずれかを加えた飼料をマウスに4週間与えたところ、ココナッツオイルと比較して、**エミューオイルを与えられたマウスは、血漿非 HDL コレステロール（悪玉コレステロール）のレベルが25%低く、HDL コレステロール（善玉コレステロール）が27%増加したことが報告されました。』**

\* 出展：『エミューオイルの生物活性』  
R. ニコロージ博士 他共著  
米国 マサチューセッツ・ローエル公立  
大学



### ◆やけど痕の改善作用について

『エミューオイルは、重要な抗炎症作用があると報告されており、化粧品と治療用の両方に使用されています。』

この実験は、**エミューオイルが治癒したやけどの瘢痕を無くすのに役立つ緩和剤としての効果があることを立証するために実施されました。』**



（エミューオイル使用から一年後）

\* 出展：『治癒した火傷痕の緩和と治療におけるエミューオイルの評価実験』 M.ペンター博士 他共著（米国火傷協会）

### ◆キズ痕の治癒について

『**エミューオイルは火傷やその他の傷の治療にも使用され、炎症を軽減するのに役立つことがわかりました。**』



中国南部医科大学の研究者は、エミューオイルの塗布が熱傷の炎症を軽減できることを発見しました。

**エミューオイルは、怪我の1~3日後までに塗布すると最も効果的であることがわかりました。』**

\* 出展：中国南部医科大学 論文

### ◆化学療法後の腸の損傷について

『2010年、G.ハワース博士が率いるアデレード大学の研究者グループは、化学療法で一般的に処方されている5-FU（抗悪性腫瘍薬）によって誘発される粘膜炎の実験モデルで、**エミューオイルが腸の炎症を軽減**できることを明らかにしました。

その後、アデレード母子の病院 消化器科でマシュトゥーブ博士が行ったさらなる研究により、**エミューオイルが化学療法後の損傷した腸の修復を促進**できることが明らかになりました。

この研究は、**癌治療におけるエミューオイルの潜在的な役割**を裏付けています。

\* 出展：『粘膜炎に対するエミューオイル(経口投与)の効果』(BJN 英国栄養学ジャーナル論文) G.ハワース博士 (豪州アデレード公立大学) 他共著

### ◆育毛作用について

『エミューオイルを摂取した検体のほうがDNA合成が約20%増加しました。

これは、コーン油を摂取した検体と比較して、**増殖活性、つまりエミューオイルを摂取した頭皮の成長活性が、20%増加した**ことを意味します。



参考：『エミューオイルとコーンオイルを使用した皮膚と髪成長を刺激および阻害する要因調査報告』

M. ホリック博士 米国ボストン大学薬学部 皮膚学科

### ◆保湿と化粧用途について

『鉱物油と比較して、**エミューオイルは全体において優れており、特に皮膚への浸透性と透過性が優れている**ことがわかりました。さらに、**保湿性においても優れている**こともわかりました。

エミューオイルは肌への栄養効果が高く、何よりも**毛穴を詰まらせない**のが特長です。

また、肌を刺激せず、すべての**肌層にすばやく浸透**します。』

\* 出展：『エミューオイルの保湿と化粧品としての特性：二重盲検試験結果』 米国 インディアナ大学医学部 A.ゼムトフ博士 他共著

### その他のエミューオイルに関する論文・研究報告

・【RIRDC（豪州政府 農産業研究開発公社）】 『エミューオイル：外傷治療と細胞活性化』、『エミューオイル：その抗炎症性成分』、『エミューオイルの殺菌性と抗ウイルス性』、『新たな動物由来原料の可能性』等 多数

・【各国での研究論文類 抜粋】

『エミューオイル：その医薬成分』：全米エミュー協会、『オレイン酸』：米国オーバーン大学 栄養科学部教授 M.C.シュミット博士、『毛穴予防』：米国テキサス薬学大学 皮膚病理科 皮膚病理研究所、『脂肪酸』：オックスフォード薬学大学 M.W.ホワイトハウス薬学博士、米国オーバーン大学 栄養科学部教授 M.C.シュミット博士、『生菌類検査』：カナダ B.コロンビア州医療技術士・生化学博士 K. デイビス博士、『長期保存機能』：WEC 生産管理課 C.バーク女史、『皮膚の保湿成分』：『皮膚学研究と技術』誌編集長 A.ゼムトフ博士、『モイストケアにおけるエミューオイルの有効性』 至学館大学 健康科学部 光岡かおり博士

\* この文書は海外の情報を翻訳・編集した記事となります。

\* 当文書内の内容・画像等の無断転載はご遠慮ください。